



W-4 日本語から見た世界の言語の主題と焦点

シンハラ語の主題と焦点

岸本秀樹（神戸大学）

1. 導入

- 日本語は「は」で文中の主題を助詞で指定することが多いが、シンハラ語においては主題のマーカは発達しておらず、代わりに主題と対立する概念である焦点を文中で指定することが多い。
- 本発表では、このような違いからシンハラ語と日本語が主題と焦点の指定の仕方に違いが観察されることを示す。
- シンハラ語は、スリランカで話されているSOV言語。基本的に主語や目的語の文法関係は、語順で決まる。口語のシンハラ語では、主語や目的語を表す格助詞はない。

2. シンハラ語の主題

- シンハラ語では、ほとんどの場合、主題は文の形式では明示的には表されず、(先行)文脈などの情報をもとに決められる。無標の場合には、文はわかっている情報を先に提示してから、新しい情報を提示するので、主題は文頭に現れる。

(1) a. Ranjit wiiduruwə binda.

ランジット グラス 割った[基本形]

ランジットはグラス（コップ）を割った。

b. Hændææwe Ranjit wiiduruwə binda.

夕方に ランジット グラス 割った[基本形]

夕方にランジットがグラスを割った。

2. シンハラ語の主題

- 文頭の表現が常に主題となるわけではない。(2a)のような疑問文に対して (2b)のように答える場合には、Ranjitは文頭に現れていても主題とはならない。(2b)のRanjitは、(2a)の疑問詞 kauru (誰) によって求められている情報となっているので、主題ではなく焦点と解釈される。

(2) a. Kau də wiiduruwə binde?

誰 Q グラス 割った[強調形]

誰がグラスを割ったの？

b. Ranjit wiiduruwə binda.

ランジット グラス 割った[基本形]

ランジットがグラスを割った。

2. シンハラ語の主題

- シンハラ語は、主題を表す助詞はほとんどない。シンハラ語では、**naŋ**（なら）で主題を表すことが可能である。(3)の**naŋ**を伴う表現は、文脈上わかっている選択肢の中から取り出し、他のものと比較して「対比的に」主題を表す。

(3) a. Ranjit **naŋ** wiiduruwə binda.

ランジット なら グラス 割った[基本形]

ランジットならグラスを割った。

b. Ranjit wiiduruwə **naŋ** binda.

ランジット グラス なら 割った[基本形]

ランジットはグラスなら割った。

2. シンハラ語の主題

「対比的に」主題を表す`nan`は、日本語の「なら」と意味的にも統語的にも同等である。助詞の`nan`を伴う対比主題表現は、情報構造が助詞によって指定されているので、文頭に来る必要はない。

通言語的に、条件を表すマーカーは、主題を表すのにも用いられやすい。Haiman (1978)は、条件節と主題が同じマーカーで示される言語としてトルコ語とタガログ語を挙げ、対比主題が表されることに言及している。

3. シンハラ語の焦点

■ 3.1. 述語の形式

シンハラ語では、焦点構文に特有の述語形式がある。シンハラ語で焦点が含まれない中立的な文に現れる定形動詞は、-aで終わる基本形をとる。

文中に焦点が含まれる場合には、基本的には、述語は強調形の-eをとる。述語が強調形になっている文では、述語以外の要素に焦点が置かれる。

(4) Ranjit bat kanəwa.

ランジット ご飯 食べる[基本形]

ランジットはご飯を食べる。

(5) Ranjit bat kanne.

ランジット ご飯 食べる[強調形]

ランジットはご飯を食べる。

3. シンハラ語の焦点

▶ 3.2. 焦点助詞

tamay, may, tamaaなどの焦点助詞を使用して、明示的に標示することができる。

(6)では、助詞を伴う表現が焦点と解釈される。tamayを単独で用いると、純粹に焦点を表す解釈が得られる。

(6) a. Chitra mee potə **tamay** kiewuwe.

チットラ この 本 焦点 読んだ[強調形]

チットラが**この本を**読んだ。

b. Chitra **tamay** mee potə kiewuwe.

チットラ 焦点 この 本 読んだ[強調形]

チットラがこの本を読んだ。

3. シンハラ語の焦点

(7)のようにtamayなどの助詞を含む文が並列された場合には、「対比」の意味で使われる。

(7) Chitra **tamay** yanne nætte.

チットラ 対比 行く ない[強調形]

チットラはいかない。私は行く。

Mamə **tamay** yanne.

私 対比 行く[強調形]

3. シンハラ語の焦点

witəray（だけ）のように、対比的な意味が必然的に出るものもある。(8)では、本以外のものをチットラが読む可能性があるという前提で発話されるため、必然的に対比の意味が込められることになる。

(8) Chitra potə **witəray** kieuwe.

チットラ 本 だけ 読んだ[強調形]

チットラは本だけ読んだ。

4. シンハラ語と日本語

日本語は、主題を「は」で標示することができる言語である。日本語で「は」は、主題 (thematic) の意味と対比(contrastive) の意味を表すことができる (久野 1973, Kuno 1973)。

(9) a. ジョンは学生です。

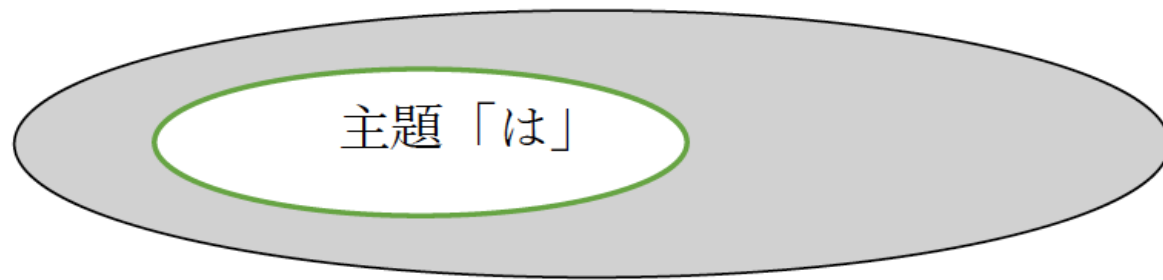
b. 雨は降っていますが、雪は降っていません。

久野 (1973: 27-28)

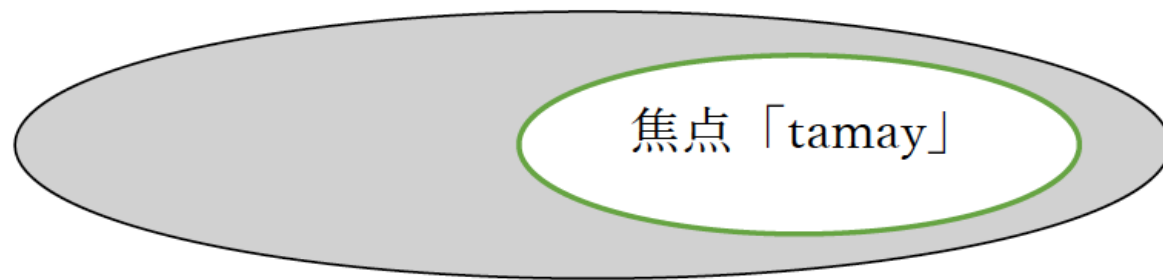
シンハラ語では、対比のない焦点と対比のある焦点を表すことができる助詞が存在する。→ 日本語の主題とシンハラ語の焦点は並行的であると考えられる。

4. シンハラ語と日本語

日本語：



シンハラ語：



5. シンハラ語の述語形式

述語以外の要素に付いた **tamay** は、焦点を表すために、**-e** の強調形の形式を持つ述語と呼応しなければならない。したがって、文中に **tamay** が現れると、述語は **-e** の強調形をとり、**-a** の基本形が現れると非文法的になる。古い日本語の「**係り結び**」と同等の形式が作られる（ただし、焦点を指定する助詞すべてが述語と呼応するわけではない。）

(10) Chitra mee potə **tamay** {kieuwe/*kieuwa}.

チットラ この本こそ {読んだ[強調形]/読んだ[基本形]}

チットラはこの本を読んだ。

5. シンハラ語の述語形式

述語が焦点となる場合には、焦点を標示する *tamay* は文末に置かれる。その場合、(11)で示されているように、動詞は、強調形ではなく基本形をとる。(11)では、動詞が焦点になる「チットラがこの本に対して読むことをした」という解釈が得られる。

文脈により、「チットラがこの本を読んだ」という主語を焦点にした解釈も「チットラがこの本を読んだ」という目的語を焦点にした解釈も可能である。

(11) Chitra mee potə kieuwa **tamay.**

チットラ この 本 読んだ[基本形] こそ

チットラがこの本を読んだのだ。

5. シンハラ語の述語形式

シンハラ語では、焦点となる要素に強勢（ストレス）を置くことによって、焦点要素を指定することもできる。(12a)では、強勢が置かれている主語が焦点であり、(12b)では、強勢が置かれている目的語が焦点となる。

強勢によって焦点が指定される場合には、述語が文法的に強調形をとる必要はなく、基本形で現れても焦点の指定は可能である。

(12) a. RANJIT wiiduruwə {binde/binda}.

ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}

ランジットがグラスを割った。

b. Ranjit WIIDURUWƏ {binde/binda}.

ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}

ランジット **グラス**を割った。

5. シンハラ語の述語形式

強勢による焦点の指定は、動詞に対しても可能である。これは、動詞が基本形を持っている時に可能であるが、強調形になると、強勢によって動詞を焦点とすることはできない。強調形を持つ動詞が強勢による焦点とならないのは、強調形が焦点になり得ないことを表しているからである。

(13) Ranjit wiiduruwə {*BINDE/BINDA}.

ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}

ランジットがグラスを割った。

6. 否定の焦点助詞

否定文においても焦点助詞を用いて焦点を指定することがある。否定に関与する焦点としては、否定の関与しない焦点構文と、否定が関わる焦点構文がある。

動詞述語文では、述語の後に否定のnææ（ない）を付けると否定文になる。否定のnææが動詞に後続する場合は、動詞は-eで終わる形式をとる。これは、動詞の強調形と見かけ上では同じになるが、焦点を指定する機能はない。

(14) Ranjit potə gatte nææ.

ランジット 本 買った ない[基本形]

ランジットが本を買わなかった。

6. 否定の焦点助詞

文否定の *nææ* (ない) は、否定の助動詞であるが、強調形の *nætte* がある。そのため、述語と呼応する焦点助詞 *tamay* を文中に置くことができる。(15) では、否定は焦点に含まれないため、(15a) では、「本を買わなかった人はランジットである」という解釈、(15b) では、「ランジットが買わなかったのは本である」という解釈が得られる。

(15) a. Ranjit **tamay** ee potə gatte **nætte**.

ランジットこそ その本 買う ない[強調形]

ランジットがその本を買わなかった。

b. Ranjit ee potə **tamay** gatte **nætte**.

ランジット その本 こそ 買う ない[強調形]

ランジットが**その本**を買わなかった。

6. 否定の焦点助詞

シンハラ語には、**newey**のような否定の意味を含む焦点助詞がある。主語や目的語に**newey**が付くと、述語は強調形をとる。(16a)では、「グラスを割った人はランジットではない」という、主語を焦点にした上で焦点要素を否定する解釈、(16b)では、「ランジットが割ったのはグラスではない」という目的語を焦点にして焦点要素を否定した解釈が得られる。文としては肯定文で、**newey**は構成素否定をする要素として機能している。

(16) a. Ranjit **newey** wiiduruwə binde.

ランジット ない グラス 割った[強調形]

誰かがグラスを割ったが（それは）ランジットではない。

b. Ranjit wiiduruwə **newey** binde.

ランジット グラス ない 割った[強調形]

ランジットが何かを割ったが、（それは）グラスではない。

6. 否定の焦点助詞

否定の焦点助詞は、(29)のように、文末に置くことも可能である。この場合は、動詞は強調形ではなく、基本形をとる。(17)の場合、neweyは文末に現れている点は、nææを用いた否定文と似ているが、neweyは、文を否定しているわけではなく、焦点要素が否定される。

(17) Ranjit wiiduruwə binda **newey**.

ランジット グラス 割った [基本形] ない

ランジットがグラスを割ったのではない。

「グラスを割ったのは、ランジットではない」

「ランジットが割ったのは、グラスではない」

「ランジットがグラスに何かをしたが、それは割ることではなかった」

7. まとめ

本発表で示したこと

- (A) シンハラ語では、主題は、ほとんどの場合、文の形式では表されず、文脈などの情報をもとに決められる。
- (B) シンハラ語の焦点を表す方法が非常に豊富にあり、いくつかの異なる方法で焦点となる要素を指定できる。焦点を表す可能性は、焦点助詞の表れる位置によって異なる。
- (C) シンハラ語には否定の焦点の助詞など、日本語では存在しないタイプの焦点助詞がある。

参考文献

Chandralal, Dileep (2010) *Sinhala*. John Benjamins.

Fairbanks, Gordon H, James W. Gair and N. W. S. De Silva (1968) *Colloquial Sinhalese (Sinhala) Part 1*. Sinha Books.

Gair, James W. (1970) *Colloquial Sinhalese Clause Structure*. Mouton.

Gair, James W. (1998) *Studies in South Asian Linguistics: Sinhala and Other South Asian Languages*. Oxford University Press.

Haiman, John (1978) “Conditionals are topics.” *Language* 54, 564-

Henadeerage, Deepthi Kumara (2002) *Topics in Sinhala Syntax*. Ph.D. dissertation, The Australian National University.

Kishimoto, Hideki (1992) LF pied piping: Evidence from Sinhala. 『言語研究』 102, pp.46-87, 日本言語学会.

Kishimoto, Hideki (2018a) “Focus concord constructions in Sinhala: A discourse-syntactic perspective.” *Glossa* 3(1).9 pp.1-25. *Special Collection: Focus Concord Constructions in Japanese and Other Languages*.

Kishimoto, Hideki (2018b) “Some asymmetries of scope assignment in Sinhala.” Kunio Nishiyama, Hideki Kishimoto, and Edith Aldridge (eds.), *Topics in Theoretical Asian Linguistics: Studies in Honor of John B. Whitman*, 73-96, John Benjamins.

岸本秀樹 (2019) 「シンハラ語のとりたて表現」 野田尚史 (編) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』 pp. 201-218, くろしお出版.

Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge: MA. MIT Press.

久野暲(1973)『日本文法研究』東京：大修館.